

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.3) メインクエスト

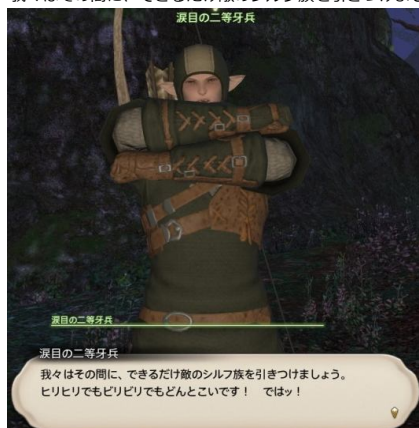


メインクエスト その2

賢人は何処へ ～ タタル頑張ル

賢人は何処へ

涙目の二等牙兵：我々は、ここシルフ領の入口で、敵対的なシルフ族の襲撃を受けました……。
そこで、護衛である我々が応戦。賢人の皆様には、エーテル測定に向かっていたいだいたのです。
そのうちのおひとり、ババリモ殿は、北東の「金葉台」方面へ向かったようでした。
鱗粉を受けたせいで、私に見えたのはそれだけです……。
あなたはマキシオ殿とともに、賢人の皆様を探して、合流してください。
我々の侵入は敵方の知るところですので、十分にご注意を。
我々はその間に、できるだけ敵のシルフ族を引きつけましょう。ヒリヒリでもビリビリでもどんとこいです！ ではッ！



マキシオ：ケンジンを見つけたのでふっち！ あなた、声をかけてあげるのでふっち。

ババリモ：あへ、やだやだ……。だるいし、面倒くさいし、もう帰りたいよ～。
……何だい？ エーテルの測定？ はあへ、遊びたいなら、こいつと遊んでよ～。
は～あ、君はしつこいなあ。測定なんてしなくても、僕、わかっちゃうんだよね～。
ラムウチャまは顕現してないよ、うん。

マキシオ：どうかしたでふっち？ ……ケンジンたちの様子がおかしいのでふっち？
ふむふむ……これは怪ひいでふっち……。もしかしたら、悪い子シルフが「変化のおまぢない」で、
ケンジンに変装してるのかもしれないでふっち！
そんなときは「見透かしの鱗粉玉」でふっち！ これを食らったら、おまぢないが解けちゃうのでふっち。
思い切って投げつけるでふっち！

イダ：もう一步も歩けなへい！ 森を荒らさないで、おうちに帰ろうよ～。

ババリモ：だるいし、面倒くさいし、もう帰りたいよ～。隣の子だって、そう思ってるよ～。



マキシオ：やっぱり悪い子シルフが変装してたでふっちな！ せっかくケンジンを見つけたと思ったのに……
ほかの場所で探してみるでふっち。
「見透かしの鱗粉玉」は、まだあるでふっち？ また悪い子シルフの変装だといけないから、
怪しいと思ったら、それを投げてみるでふっち！



サンクレッド： 怖いよ～！ 怖いよ～！ みんなが俺のカッコイイ顔を狙うよ～！ 怖すぎて動けないよ～！

マキシオ： またまたケンジン発見でふっち！ 今度こそ、本物でふっち……？

イダ： あっ、◆◆◆！ よかったー、無事に追いついてこれたんだね。
こっちはちょっと、困ったことになってさー。測定をしなきゃいけないのに、
サンクレッドが怯えちゃって、動こうとしないんだよね……。
……何があったんだろ？
ゲホゲホッ！ な、なにをするのさ～！

マキシオ： 片方は本物だったのでふっち！ さっそく、お話を聞いてみるでふっち。

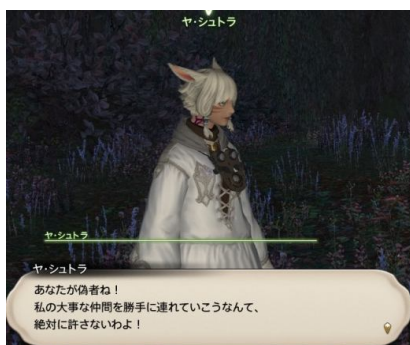
イダ： サンクレッドが、悪い子シルフだった！？ うそ、まさか偽者だったの！？
うわ～、全然気付かなかったよ！ 「変化のおまぢない」は知ってたけど、すっごく似てたし。
……本物は、どこいったんだろ？

秘密を見透かせ！

イダ： 本物のサンクレッドがどこにいるかは知らないけど、ババリモとヤ・シュトラなら、さっきまで一緒だったよ！
ヤ・シュトラが「手分けしましょう」って言って、ババリモを連れていったんだけど……。
もしかして、あれも悪い子シルフの変装だったのかな！？
いけない、すぐに追いかけて知らせなきゃ！ ふたりは南の方に向かったよ、行こう！

ヤ・シュトラ： あなたが偽者ね！ 私の大事な仲間を勝手に連れていこうなんて、絶対に許さないわよ！

ヤ・シュトラ： ……………これ、吹き飛ばしてもいいかしら。



マキシオ : これが噂に聞く、ヒトの「修羅場」でふっち！？

イダ : うわあ……間違えたらすごい怒られそう……。こうなったら、キミにお任せだ～！

ババリモ : ああ、君、いいところに！ この状況、どうにかしてくれよ……。
ヤ・シュトラといったら、別のヤ・シュトラが出てきてさ……。
……マキシオと一緒にのかい？ だったら、対策がないか相談してみてくれよ！

マキシオ : ふっちっ……。疑わしきは、まとめてドッカンでふっち！
ということで、追加の「見透かしの鱗粉玉」でふっち～！ この際、真ん中のヒトも確かめておくでふっち。
3人にむけて、思いっきり投げつけるでふっち！

ババリモ : ああもう、何でこんなことに！ この状況、どうにかしてくれよ……。

ヤ・シュトラ : けほっ……けほっ……！ 何なの、鱗粉……！？

イダ : 見て、あっちが偽者だっ！

悪い子シルフ : ぶわっ、バレたのでふっち！ し、仕切り直してふっち！
ぜ、絶対に近づくんじゃないでふっち！ わたびに近づいたら、お友達が黙ってないでふっち～！！



ババリモ : ……逃げるんじゃないのか？ あれじゃ、まるで通せんぼだな……。

サンクレッド : おお、やっとみんなに合流できた。気がついたら周りに誰もいなくて、驚いたよ。
……ど、どうした？ みんなして、俺を疑うような目で見te。俺、何かおかしいか……？



ババリモ：……なあ、サンクレッド。僕たちがここへ来た目的は、なんだったかな？

サンクレッド： おいおい、まさか忘れたってことはないだろ。蛮神「ラムウ」と◇◇◇の対話のために、神降ろしされた場所を突き止めに來たんだ。

イダ： うんうん、そうだったよね。……ところでさ、フ・ラミンって今でも美人だと思わない？

サンクレッド： え？ あ、ああ！ 「ウルダハの歌姫」と呼ばれていたころも憧れたものだが、今の姿もまた、濃紅の薔薇のように美しいよ。

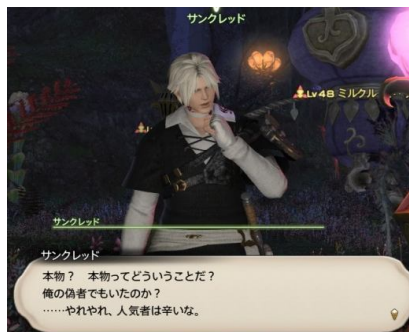
ヤ・シュトラ： お上手なこと……。最近は、口説く相手が多くて大変ね、色男さん？

サンクレッド： よしてくれよ、ヤ・シュトラ。彼女たちを見ていると、詩が湧き上がってくるだけだ。愛の吟遊詩人としての血が騒ぐのさ……。

ヤ・シュトラ： ……本物ね。

サンクレッド： 本物？ 本物ってどういうことだ？ 俺の偽者でもいたのか？ ……やれやれ、人気者は辛いな。

イダ： サンクレッドがサンクレッドでよかったよねえ。さて、そんなことより蛮神「ラムウ」を探そうよ！



ババリモ： はあ、何だか気が抜けたよ。……でも、悠長にしてられるのもここまでだぞ。
◆◆◆、あの悪い子シルフに近づいてみよう。あいつ、引き下がれない理由があるんだ……。

ヤ・シュトラ： 下手な変装なんてしてくれて、言いたいこともあるけれど…… 全員で近づいたら、さすがに怯えて逃げそうね。あなたに託すわ。

マキシオ： 悪い子シルフには、アブないお友達がたくさんいるでふっち。気をつけるでふっち！

悪い子シルフ： うう……お友達が黙っちゃったでふっち……。し、仕方がないでふっち……降参でふっち……。
お前らをからかったことは、謝ってやるでふっち。
でも、ラムウちゃまはどこにもいないでふっち！ だから、この先には絶対に入ってくるなでふっち！
絶対に絶対にふっち！

マキシオ： 大丈夫でふっち？ お怪我はないでふっち？

ヤ・シュトラ： ありがとう、ちょっとすっきりしたわ。……今の悪い子シルフの発言、決定的ね。

ババリモ： 君たちの話、聞こえてたよ。悪い子シルフは、この期に及んで嘘をついてるようだね。
さっきの隙に、この周辺のエーテルも測定してみたけれど…… 蛮神「ラムウ」の神降ろしが行われた場所、間違いなく掴んだぞ！

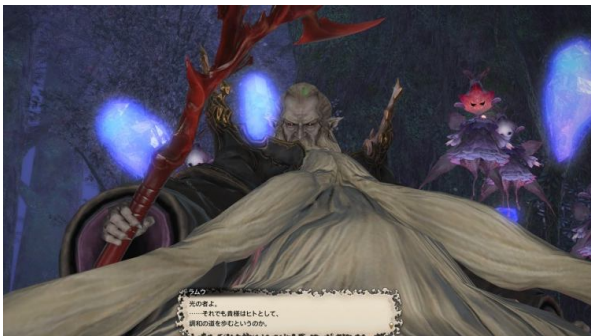


裁きの雷

ババリモ：悪い子シルフは、僕たちをここで足止めしようとした……。そして、この周辺のエーテルを測定したところ、南東の方角にエーテルの乱れを検知したんだ。
なんだかんだでシルフ領のあちこちを連れまわされたけど、この規模の乱れは、ほかに見つからなかった。
そこから導かれる結果はひとつ……。
蛭神「ラムウ」の神降ろしが行われたのは、ここから南東、シルフ族の「蛮風エーテライト」の周辺だ！
地図に印をつけたから、近くまで行ってみよう。……残念だけど、マキシオとはここでお別れだ。
蛭神「ラムウ」に近づけば、信者になる可能性が高いからね。
……それじゃあ、行こう！ 蛭神「ラムウ」に、君の思いを伝えるんだ！

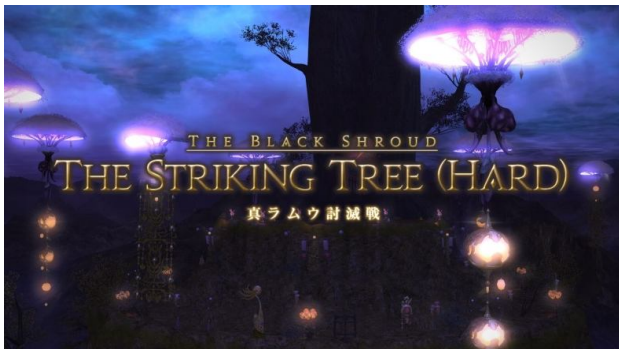


ラムウ：……その力。お主、ハイデリンの使徒か。
ふむ……イフリート、タイタン、ガルータ。それにリヴァイアサン……。
奴等を払い退けし光の者というのは、お主のことじゃな。
ワシの名はラムウ。黒衣森の民、シルフ族の守護者……。
光の者よ、ここはシルフ族の聖地。何用で「ヒト」が足を踏み入れたのじゃ。
グリダニアの民は、調和を望んでおるといのか。……ヒトとは、かくも身勝手なものか……。 まっこと愚かじゃ。
お主に、この者たちの願いが解るか。ただ、この森で静かに暮らしたいだけなのじゃ。
しかし、ヒトはその小さな願いすら阻害する。
シルフ族がワシを招いたのは、その願いを叶えるため……。そこまで追い込んだのは、貴様らヒトの仕業なのじゃぞ。
シルフ族にとって、ヒトはヒト。たとえ、グリダニアの民が自然との調和を重んじようと、
一方で、帝国の民は森を侵し続ける……。
結果的にヒトは、森に穢れと争いを持ち込むだけじゃ。すべてはヒトが、闇を抱える存在だからにほかならん。
……そもそも、ヒトはいつから闇を抱えるようになった。始原の時……そこには光も闇もなかった……。
まさか、ヒトがヒトたるために生まれたといのか。
ならば、ヒトがいる限り、この世から、穢れと争いが無くならぬ道理よな。なぜなら、ヒトが生きるために必要なことからじゃ。
光の者よ。……それでも貴様はヒトとして、調和の道を歩むといのか。
ほう、それは聖域を去った子らに渡したクリスタル……。……なるほど、お主はワシの知ったヒトとは、ずいぶん異なる存在のようだ。
これは光の使徒だからではない……。何か特異な……そうか、もしやあやつになら……。
よからう……。ならば、ワシに示せ。貴様の力を。
ヒトがシルフ族や森との調和を望むというのなら、この森から帝国を排除するほどの力を、
世から闇を取り払うほどの力を、ワシに示してみせよ。
それができぬというのなら、この雷神ラムウが、地表のすべてのヒトに、「裁きの雷」を落とすまでじゃ！
来るがいい、光の者よ。裁きの地にて、貴様を待っておるぞ！



ヤ・シュトラ : ……珍しいわね。あなたがこんなところまで出てくるなんて。

ウリエンジェ : 蛮神「ラムウ」……私も、この目で見るのは初めてです……。これは眼福の光景……結尾の記憶としましょう。
……これは失礼を……。
どうしても、調べたいことがあるのです。この機械仕掛けの眼（まなこ）を通し、雷神狩りを、拝見させていただきます……。



ラムウ : 来たか、光の者よ…… 貴様の力、測らせてもらおうぞ！

ラムウ : これより裁きを下す……心せよ！

ラムウ : 輝ける古の知に照らし、我、汝に厳正なる審判を降さん！

ラムウ : ファファファ、久方ぶりの戦い…… 我が技もさえてきよったわ！

ラムウ : 審判の時は近い…… 集え、裁断者たちよ！

ラムウ : お主、一体……？ これがヒトの可能性なのか……。

ラムウ : お主の力、しかと見届けた……。

……光の者よ、気付いておろう。ヒトが抱えし闇は、すべてはヒトが撒いたもの。

ならば、その力をこの森のため、エオルゼアのために履行してみせよ。世との調和を求めるのなら、己で勝ち取ってみせよ。

特異な存在であるお主ならば、それも叶おう。光によって闇を払い、ヒトを正しき方向へ導くことが……。

ウリエンジェ : さすがは光の戦士……。蛮神「ラムウ」の討伐、見事です。

私も、あなたの戦いを拝見して、たどり着きましたよ。**アシエンを完全消滅させる手掛かり**に……。

まずは戻しましょう……。後ほど、石の家にて報告いたします。

双蛇党中牙士 : ご帰還、お待ちしております！ 蛮神「ラムウ」との対話は、どうでしたか……？

なんと、決戦に臨まれたのですか！？ ああ、ご無事で何よりです……！

蛮神「ラムウ」があなたの力を認めたとあれば、グリダニアにとっても、仮宿のシルフ族にとっても、これ以上ない吉報でしょう。

急ぎ、カヌ・工様にもお伝えしないと。◆◆◆殿……大役、ご苦労様でした！

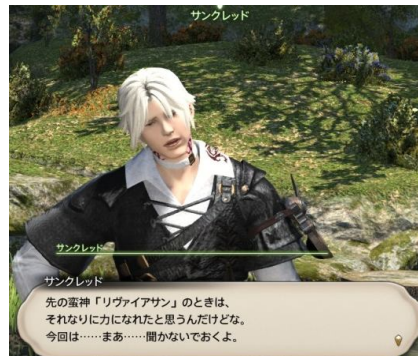
還りし神、巡りし魂

双蛇党中牙士： 蛭神「ラムウ」の件につきまして、カヌ・工様も、あなたからの報告をお待ちのことでしょう。グリダニアに戻り、豊穡神祭壇にいる道士に、「不語仙の座卓」への案内をお申し付けください。お疲れでしょうから、お氣をつけて！

物静かな道士： よくぞ戻られた。カヌ・工様が、貴殿の到着を心待ちにしておいでだ。「不語仙の座卓」に向かうか？

ヤ・シュトラ： イダとババリモの目論見も、私の見解も、ある意味どちらも正解だったわけね……。もう少し、イダの話も聞いてみるべきかもしれない。

サンクレッド： 先の蛭神「リヴァイアサン」のときは、それなりに力になれたと思うんだけどな。今回は……まあ……聞かないでおくよ。



ババリモ： ほら、胸を張ってカヌ・工様に報告するといい。君は素晴らしい手柄を立てたんだからさ。

イダ： 仮宿で、マキシオにお礼を言われたよ。なかなか楽しかったから、また一緒に遊ぼうってさ。

カヌ・エ・センナ： 冒険者殿、ご苦労さまでした。先ほど、双蛇党の者より報告を受けたところです。結果的に、蛭神「ラムウ」と刃を交えることになったとか。……本当に無事でなりよりでした。ラムウがそんなことを……。人が持つ闇が、新たな問題を生む……。確かにそうなのかもしれませんが。カルテノー平原の「アウトロー戦区」。……そして、ウルダハを発端に、エオルゼア全土に広がりを見せている難民問題。先の帝国との戦い以降、エオルゼアは、統一どころか、以前にも増して人の間が表面化し、争いごとが増えているように感じます。第七霊災の復興が一段落し、人々は、共通した目標を失いつつあるのです。だからこそ、人々の意志をひとつにし、新生したエオルゼアを生きていく必要がある……。グランドカンパニー「エオルゼア」。人と人とは、わかりあうことはできないのでしょうか……。……今回の件、グリダニアを代表して礼をします。「暁」の皆さまにも、よろしくお伝えください。あなたや「暁」の方々には、迷惑をかけてばかりですね。この国を預かる者として、もっとしっかりしなくては……。蛭神「ラムウ」が収まったというのに、森に流れる嫌な風が消えないなんて……。森の精霊たちよ……。この地に何が起ころうとしているのです……。

ババリモ： 改めて……。蛭神「ラムウ」の鎮圧、お疲れさま。僕らが考えていた、対話による和解とは違った結末だったけれど、十分に納得できる結果だったと思うよ。ウリエンジェも、何か掴んだそうじゃないか。さっそく「石の家」に戻って、この一件をまとめよう。ミンフィリアも、君の帰りを待ちわびてるはずだ。

ミンフィリア : お帰りなさい！ 蛮神「ラムウ」の件、さっき連絡を受けたところよ。
わたしからも、あなたに伝えたいことがあって…… でも、まずはウリエンジェさんの報告が先ね。
蛮神「ラムウ」との戦いを見ていて、アシエンにも関係する、重大な発見をしたそうなの。
さっそく、みんなを集めましょう。
みんな、そろったわね。
ウリエンジェさん、お願いします。

ウリエンジェ : 砂の家に現れた、白き衣のアシエン…… 「アシエン・エリディプス」。
彼の発言から、アシエンは不滅の存在、つまり「不死」であることがわかりました。

ミンフィリア : あれから、わたしとウリエンジェさんは、アシエンを完全に消滅させる方法を探していたの。

ウリエンジェ : そして、ついに…… 影を狩る手がかりを掴んだのです……。
先の蛮神「リヴァイアサン」との戦いで、サハギン族の長老がみせた「不滅なる者」への昇華……。
その際のエーテルの流れを測定していた、ヤ・シュトラ嬢の測定結果を確認致しました……。

ヤ・シュトラ : あの時、肌に感じるくらいエーテルが震えていたわ。だから、とっさに測定器を着けて調べていたのよ。

ウリエンジェ : そして今回、私は蛮神「ラムウ」との戦いを拝見致しました。蛮神が散る際のエーテルの流れについて再確認していたのです。

ミンフィリア : 良い機会だわ。エーテルの流れをおさらいしましょう。
わたしたちが生きている「物質界」で生命が死ぬと、通常、その魂であるエーテルは砕け散り、「エーテル界」へと還ります。
そして、「エーテル界」に揺蕩うエーテルが、「物質界」に降り、新たな生命が誕生するの。



ウリエンジェ : 命は散りて、星の海へと還る。これぞ神々が定めた命の理……。
エーテルに満ちた星海は、この世と重なり合い、寄り添う世界…… エーテルは巡り、命もまた巡る……。

ミンフィリア : だけど、蛮神は例外……。地に満ちたエーテルであるクリスタルを喰らう蛮神は、その肉体までもがエーテルで構成されている。
だから、倒すことで肉体は砕け、そのエーテルは大地へと還元されてゆく……。
それでも魂だけは、エーテル界に還ると考えられているわ。



ヤ・シュトラ : 確かに、サハギン族の長老が提督に撃たれた時、ひとかたまりのエーテル塊が漂い、別のサハギン族に乗り移るのを確認したわ。

ウリエンジェ : 肉の身体持ちて、死して散らぬ魂を持つ者……。

サンクレッド : なるほど、それが「不滅なる者」…… サハギン族の長老のやったことか。では、器が側にない場合、魂はどうなるんだ？

ミンフィリア : エーテル界に還るということは、「死」を意味するわ。だから「不死」である彼らの魂は、
エーテル界に還っていないと考えられます。

ウリエンジェ : 彼らは逃避する…… 暗き輝きの道を開きて、星海の渚へ……。

ミンフィリア : ……そう、つまりは、物質界とエーテル界の「狭間」のような場所に待避しているのではないかということね。
アシエンたちは「闇のクリスタル」を触媒に、サンクレッドに憑依していたわ。
つまり、これが「狭間」へ至る門なのかもしれない。

サンクレッド : ……いやな思い出だぜ。



ミンフィリア : サンクレッド……。

ウリエンジェ : これが、探究の旅路の果てに辿り着きし答え……。

ヤ・シュトラ : サハギン族は「不滅なる者」になったものの、「闇のクリスタル」を持っていなかった……。だから「リヴァイアサン」に喰われたってわけね。
……そうか、だったら、アシエンを倒した時に魂のエーテルを逃さず、リヴァイアサンのように吸い込んで捕縛してしまえば……。



ウリエンジェ : ご名答、恐れ入ります。さすがヤ・シュトラ嬢、察しがいい……。
肉体失いし魂を、エーテルの檻に捕らえ、エーテルの刃で砕く…… さすればアシエンの魂も、星海に還りましょう……。

ミンフィリア : アシエンの魂を逃すことなく捕らえ、さらに、そのエーテルを粉々に打ち砕く魔器なんて、簡単には想像できないわ。
でも、きっと方法はあるはず。手掛かりは掴んだもの、あとは実現に向けて進むだけよ。

ウリエンジェ : では、私はさっそく、これらの現象を人工的に起こすことができないか、
シャーレアン本国の賢人とともに、検討に入りましょう。

ミンフィリア : ええ、よろしくお願いします。

ウリエンジェ : それと、ミンフィリア……。バリエーション委員会の件ですが、現在、シャーレアン本国の調査団が現地に向かっています。
直に連絡が来るでしょう。不安な気持ちはわかりますが、今は待つべき時……。祈りとともにお待ちを。

ミンフィリア : ありがとう、ウリエンジェさん……。



アシエン・イゲオルム : 水神リヴァイアサンに続き、雷神ラムウまでも……。

アシエン・ナブリアレス : まさか雷神が、光の使徒を受け入れるとはね。

アシエン・エメロロアルス : ……焔神、嵐神、岩神、水神、雷神。彼の地で顕現可能な五大神は、すべて、あの者に討たれたということになる。

アシエン・ウルデマ : 人の進化……。エリディブス卿の言うとおりのことか。

アシエン・エリディブス : はたして、ハイデリンの意思か。人は、七度の「次元圧壊」を生き延び、「人ならざる者」に進化しようとしている。
だが、「アーダー」による、絶対神「ソディアーク」様の再生。その最後の欠片は、覚醒せし人の「人たる者」への進化だ。

???? : ……ならば、それを成すことも、我々に課せられた使命。

アシエン・ラハブレア : かの地、エオルゼアが神々に愛される理由……。そのために、新たな「知」を人にあたえ、新たな「神」を導く。
すべての世界をひとつにし、「原初の理」を得るために。



憧れの英雄

ミンフィリア： さて……。蜜神「ラムウ」の件が落ち着いたところで、あなたに見せたいものがあるの。
この書状はね、三国から……。 リムサ・ロミンサ、ウルダハ、グリダニアから届いた、蜜神討伐に対する感謝状よ。
あなたはこれまでに、蜜神イフリート、タイタン、ガルータ……。 そしてリヴァイアサンと、ラムウを討伐した。
……そう、エオルゼアで顕現が確認されている主要な蜜神を、軒並み倒したことになるのよ。
わたしは「暁」の盟主として書状を受け取ったけれど、ここに込められた感謝の気持ちは、
あなたに贈られたものだと思っています。
そして、わたし自身も……。 これまで何度となく呼びかけに応え、戦ってくれたあなたに、心から感謝しているの。
ありがとう、◇◇◇。エオルゼアから、大きな脅威を退けることができたわ。
……わかってる。これですべてが解決したわけじゃない。アシエンがそのまま引き下がるとは、考えていないわ。
そうでなくても、各地で争いごとが絶えない……。蜜神が願いから生じるものである限り、
それらを解決するまでは、蜜神問題も続いていくでしょう。
でも……。それでもね……。あなたが偉業を成し遂げて、みんなが感謝していることは、かけがえのない真実ではないかしら。
わたしたちは、確実に平和へと歩んでいる……。あなたと、あなたの出会ってきた仲間に支えられてね。
たとえば、あなたが信頼の絆を結んだという蜜族たち……。蜜族と人との共存を願う者……。
アリゼーが、第七霊災の真相を暴くために、何か重大な調査をしていることも聞いているわ。
そしてシドたちは、アルテマウェボンの過ちを繰り返さないよう、古代アラグ文明の遺産を研究しているという……。
もちろん、わたしたちも負けてはいられない。
「暁の血盟」にしかできない、アシエン問題の解決……。 必ず、やりとげてみせましょう！

????： 素晴らしい意気込みだ。この分なら、私がしばらく席を空けても、なんら問題はなさそうだな。

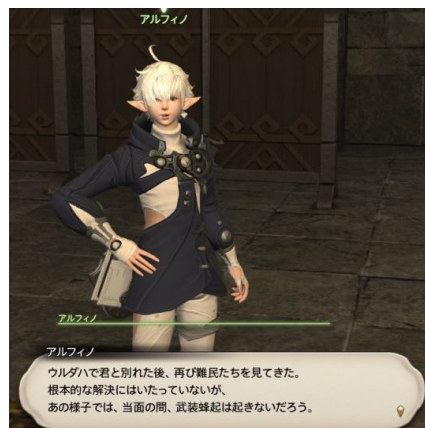
ミンフィリア： アルフィノ！ ウルダハの方はもういいの？

アルフィノ： 多少の影響は残っているものの、暴動自体は、おおむね沈静化したよ。その件について、君に報告をしにきたんだ。
それとあわせて……。 例の「先行統一組織」の話を見せてもらいたい。
ああそうだ、エルの……。 難民の少女の両親は、無事に見つかったよ。
君にも「ありがとう」と伝えてほしいと言付かっている。

ミンフィリア： あら、アルフィノの口から、知らない女の子の名前が出るなんて珍しい！ その報告も、聞かせてもらえるのかしら？
◇◇◇、しばらくレヴナンツツールを離れていたのだから、息抜きもかねて、街に出てみたら？
そういえば、「スラフボーン」さんが、あなたに話したいことがあると言っていたわよ。

ミンフィリア： まだまだ大団円とはいえないけれど、ひと段落ね。次の任務まで、街をまわってきたらどう？
いろいろな人と話すのも、いい気分転換になると思うわ。

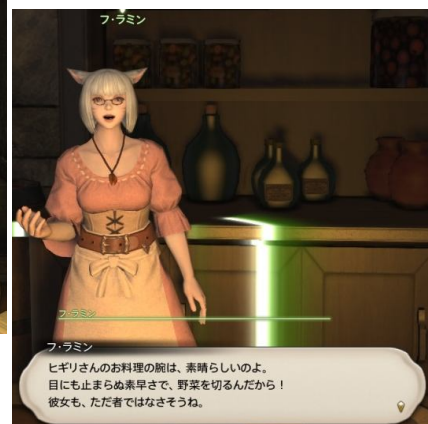
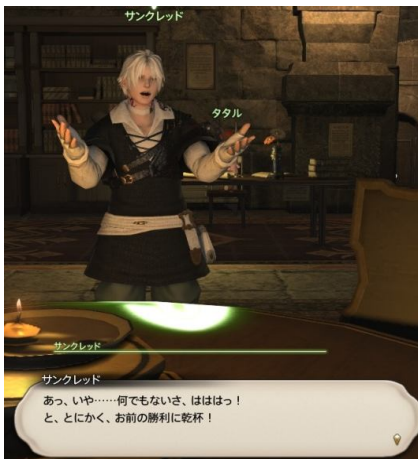
アルフィノ： ウルダハで君と別れた後、再び難民たちを見てきた。根本的な解決にはいたっていないが、
あの様子では、当面の間、武装蜂起は起きないだろう。
そちらも、無事に蜜神「ラムウ」の件を取めたようだね。詳細はミンフィリアから聞いておこう。
おつかれさま、◆◆◆。



ババリモ : 油断大敵って言葉があるだろう？ ひと仕事終えた後だからこそ、気を引き締める必要があるんだ。
……って、イダ？ ちゃんと聞いているか！？

イダ : ……………ンハッ！ ち、違うよ！ 寝てないよ！？ ちょっと目を瞑って、考え事をしてただけだから！

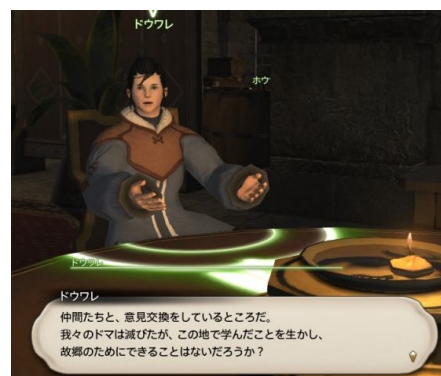
ヤ・シュトラ : ご苦労さま、今はゆっくり休むといいわ。でも、あまり気を緩めちゃダメよ。……お隣の誰かさんみたいだね。



サンクレッド : 今回もお手柄だったな、◇◇◇！ 奢ってやるから、あっちのカウンターで一杯どうだ？
どうせなら、フ・ラミンさんとヒギリさんのそばで……
あっ、いや……何でもないさ、はははっ！ と、とにかく、お前の勝利に乾杯！

タタル : みなさんが帰ってきて、賑やかになりました！ 砂の家にいっぱい人がいたときのこと、
ちょっとだけ、思い出してまっす……。

フ・ラミン : ヒギリさんのお料理の腕は、素晴らしいのよ。目にも止まらぬ素早さで、野菜を切るんだから！
彼女も、ただ者ではなさそうね。



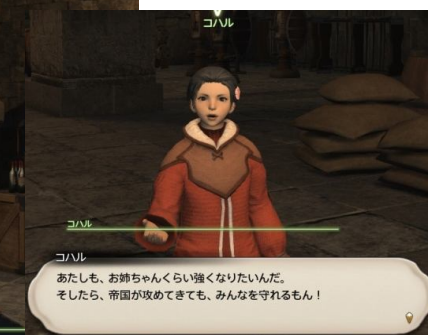
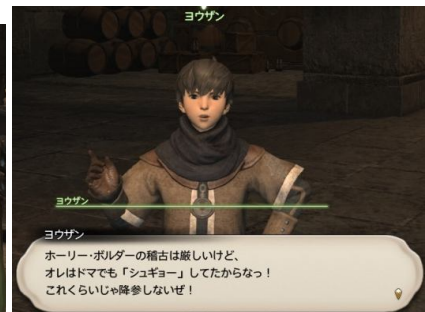
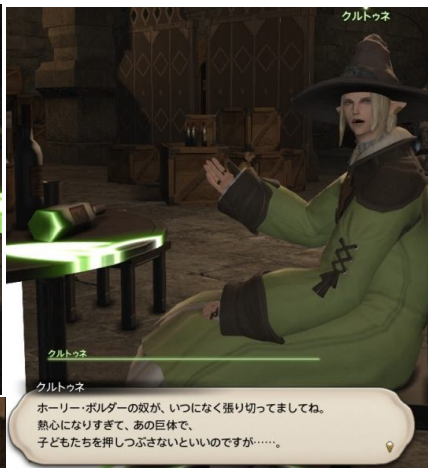
ヒギリ : 本格的なドマの郷土料理を作るには、ここにある食材や香辛料では足りないんです。
でも、それをどう補うかが、腕の見せどころですよ！

ドウフレ : 仲間たちと、意見交換をしているところだ。我々のドマは滅びたが、この地で学んだことを生かし、
故郷のためにできることはないだろうか？

ホウザン : 冒険者というのは、自由に見えてなかなか大変みたいだな。主君を持たず、己の心のままに従い大事を成す……。ただの「風来坊」とは言えないようだ。

クルトツネ : ホーリー・ボルダーの奴が、いつになく張り切ってましてね。熱心になりすぎて、あの巨体で、子どもたちを押しつぶさないといいのですが……。

ホーリー・ボルダー : 子どもたちを相手にした稽古だからこそ、気は抜けません。彼らドマの民には、この先も苦勞が多いはず……。決してくじけぬよう、心身ともに鍛えねば！



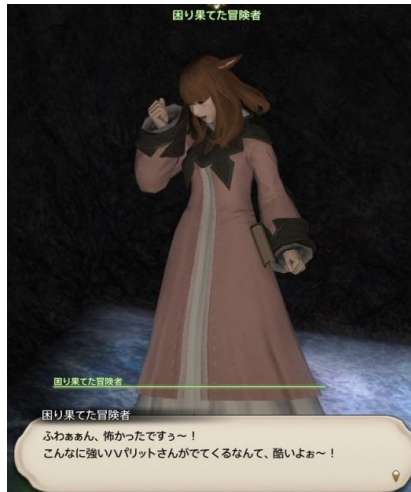
ヨウザン : ホーリー・ボルダーの稽古は厳しいけど、オレはドマでも「シュギョー」してたからなっ！これくらいじゃ降参しないぜ！

シウン : 先生の鎧、白くてピカピカしてカッコイイなあ。でも、剣はもっと大きいヤツが好きだな！

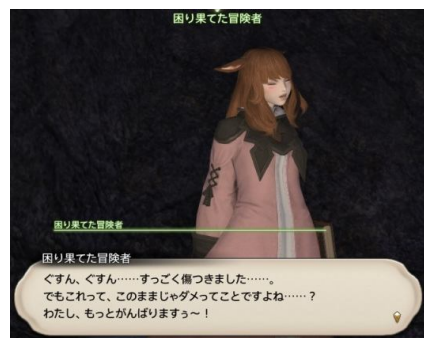
コハル : あたしも、お姉ちゃんくらい強くなりたいんだ。そしたら、帝国が攻めてきても、みんなを守るもん！

ロッカ : わたし、戦うのは嫌い……。ホーリー・ボルダーが言ってることも、難しくてよくわかんないや……。

スラフボン : おお、今をときめく敏腕冒険者のご帰還だな。今日は「暁」の任務はいいのか？
……なに、わざわざ俺の話を聞きに？ それはありがたい。実は、ちょっとした相談があったんだ。最近、レヴナンツツールを訪れる冒険者の数が増えてな。街自体が有名になってきたこともあるが、「暁」の英雄に憧れてやってくる新参者も多いんだ。こいつらがまた未熟で、手を焼かせてくれる……。そこで、お前から、冒険者のなんたるかをピシッと指導してもらいたいと思っていたわけだ。
……だが、こんなときに限って、一番の問題児がいない。ノバリット討伐に向かったはずだが……この遅さでは、また下手をこいてるな……。
すまんが、加勢をしに「唄う裂谷」へ向かってくれないか？先輩らしいところを、実戦で見せてやってくれ。

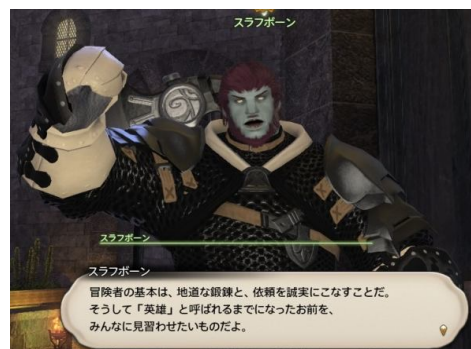


困り果てた冒険者： ふわあぁん、怖かったですぅ～！ こんなに強いV.V.やリットさんがでてるなんて、酷いよぉ～！
……って、あれれえ？ もしかして、あなた、◇◇◇さん……？
すごいすごい！ やっぱり強いんですねえ～！ わたし、◇◇◇さんの噂を聞いてから、すごい憧れてたんですよ～！
こんな恥ずかしい姿、見られなくなかったですぅ……。もうっ、使い魔ちゃんが、言うことを聞いてくれないのが悪いんですよ！
こんな危険な依頼なのに、みんな手伝ってくれないしい～。わたしは何にも悪くないんです！
だから、わたしに「呆れ」ないでくださいな……？



困り果てた冒険者： わたし、まだまだ未熟だけど…… 本当はもっと、がんばれる子なんですぅ～！ だから、わたしに「呆れ」ないでくださいな……？
ふわあぁん！ やだぁ～！ ◇◇◇さんに、呆れられたよぉ～！
くすん、くすん……すごく傷つきました……。でもこれって、このままじゃダメってことですよね……？
わたし、もっとがんばりますぅ～！

スラフボーン： ああ、さきほど例の問題児が戻ってきたぞ。ずいぶんとしよぼくれた様子だったが、それだけ、お前の指導が効いたということだな。
うーむ、さすがだ。俺では、何を言っても「おヒゲすごいですね～」だからな……。話術の違いか、人気の違いか……。
何はともあれ、問題児の彼女が努力をはじめれば、ほかの冒険者たちも、おのずと姿勢を正そうというもの。
冒険者の基本は、地道な鍛錬と、依頼を誠実にこなすことだ。そうして「英雄」と呼ばれるまでになったお前を、
みんなに見習わせたいものだよ。



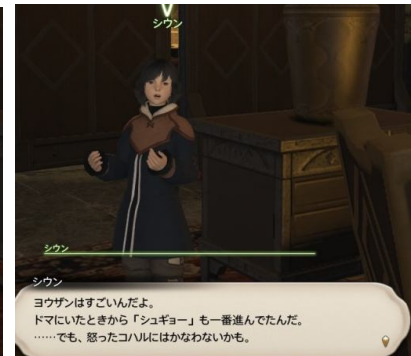
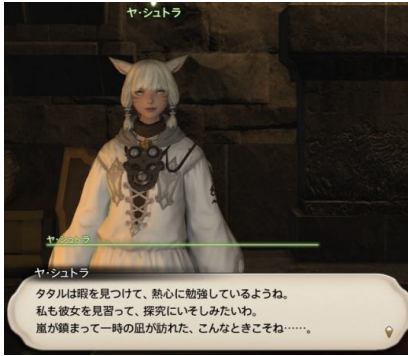
タタル頑張ル

スラフボーン：冒険者が増えた……といえば、「暁」の門を叩く者も、かなり増えていると聞くぞ。
先日、ここを通った「タタル」が、何やら難しい顔をしていてな。任務のないうちに、話を聞いてやったらどうだ？

ヤ・シュトラ：タタルは暇を見つけて、熱心に勉強しているようね。私も彼女を見習って、探究にいそしみたいわ。
嵐が鎮まって一時の風が訪れた、こんなときこそね……。

ババリモ：ドマの子どもたちが来てから、なかなか静かに落ち着けなくてさ……。まあ、イダとふたりでも、落ち着けないんだけどね……。

フ・ラミン：ヒギリさんがよく働いてくれて、助かるわ。ドマの女性って、あんな風にみんな勤勉なのかしら。



イダ：フ・ラミンに、シルフ領で起きたことを話してんだ。サンクレッドの偽者のこととかさ〜。……あつ、本人には内緒だよ！

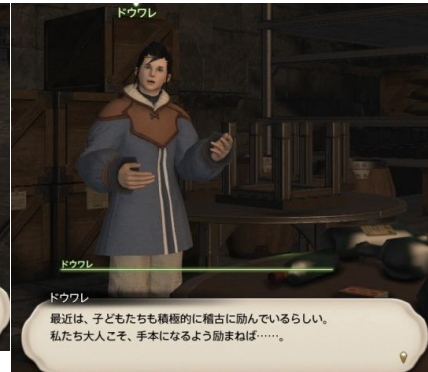
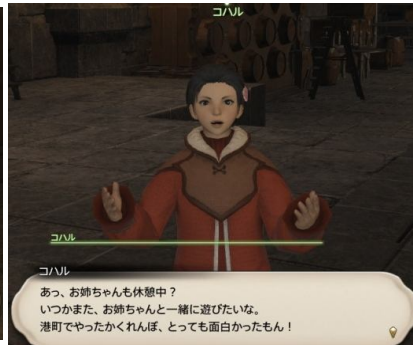
ヨウザン：ホーリー・ポルダーの稽古がないときも、ジシ的に活動しなきゃな！ レヴナンツツールの見回りに行くぞ！

シウン：ヨウザンはすごいんだよ。ドマにいたときから「シュギョー」も一番進んでんだ。……でも、怒ったコハルにはかなわないかも。

ロッカ：お稽古は嫌いだけど、ホーリー・ポルダーは好き……。ルガディン族って、お山みたいに大きくて、ちょっとクマさんみたい……。

コハル：あつ、お姉ちゃんも休憩中？ いつかまた、お姉ちゃんと一緒に遊びたいな。港町でやったかくれんぼ、とっても面白かったもん！

ドウフレ：最近、子どもたちも積極的に稽古に励んでいるらしい。私たち大人こそ、手本になるよう励まねば……。





クルトゥネ : どうです、◆◆◆さん。たまには稽古の様子を見ていきませんか？

ホーリー・ポルダー : 鍛錬を続けることは、いつか自信に繋がります。微力ですが、ドマの人々が生きる自信を取り戻すため、私も尽力していきましょう。

サンクレッド : 懸命に働く女性の姿は、凛として美しいね。風雪に耐えてけなげに咲きそめる、可憐な野花のようだよ。

ヒギリ : 物資の管理をお手伝いすることになりました。間違いないよう、しっかり数えないと……！

ホウザン : 仲間の多くは、レヴナンツツール開拓団の一員として、物資の輸送や、街の工事に従事しはじめたんだ。私も、今日は用具の点検から頑張るよ。

タタル : えっ、私にご用事ですか？ スラフボーンさんが、私が困った様子だったと……？
……やれやれです。あなたには余計な心配をかけたくなかったのですが、バレてしまっは仕方ないのです。
◇◇◇さん……。覚悟して、私の秘密を見るのです！
フッフッフ……。どうです、間違えましたか？ 私、このたび探掘師の資格を取ったのです！



タタル： ですが、趣味のためではありません。これには、聞くも涙、語るも涙な理由があるのです……。石の家に引越してから、「暁の血盟」は、前よりも開かれた組織になりました。帝国を退けたという評判もありまっすから、門戸を叩く人は多く、仲間は増えているのです。でも……でも……！先立つものが……！ お金が！ ないの！ でっす！！

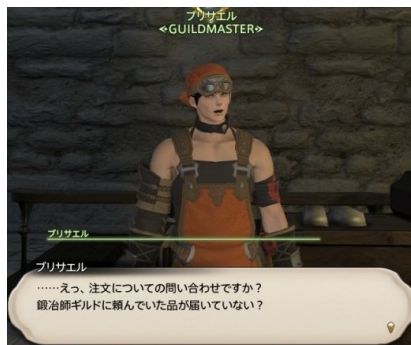
「暁の血盟」は中立の組織……。そのため、外部の団体からは、大規模な金銭的支援を受けることができません……。三都市からの公的な援助や、アルフィノさんからの個人的な支援を受けていますが……

さすがに、細かな経費までは頼れないのです。それ以外の支援物資については、冒険者ギルドを介して、「レヴナンツツール開拓団」に渡してますっしね……。私は「暁」の帳簿も守る、やり手の受付でっす。この危機をどうにか乗り切るべく、自分の力で、稼ぐことに決めたのです……。そのための採掘師なのです！ 効率化をはかるため、装備だって自腹でそろえたのです！ ……なのに、鍛冶師ギルドに注文した副道具だけが、いつまでも届かないのです……。へそくりはたいて注文したのに、あんまりでっす……。

◇◇◇さん、「暁」の存続のために、鍛冶師ギルドから、副道具を受け取ってきてほしいでっす！ あっ、テレポの……エーテライトの利用料金くらいなら、どうかお支払いするでっす。受け取った荷物は、フ・ラミンさんに預けるでっす。私は、できるところから採掘をはじめてまっす。目指せ！ クラスター掘ってざっくざく、でっす！



ブリサエル： おや、キミでしたか。こんにちは、今日はどういった用件で？ 自慢の一作でも、見せてもらえるのでしょうか。……えっ、注文についての問い合わせですか？ 鍛冶師ギルドに頼んでいた品が届いていない？ それはおかしいですね……。『暁』のタタルさん宛の荷物なら、しばらく前に送りました。お花の意匠のモールなんて珍しかったから、覚えてますとも。もしや、荷運びの途中で何かあったのでしょうか？ 頼んだ荷運び人が戻ってきているのなら、八分儀広場南の空き地にいるはずで。今まで何の連絡もなかったあたり、一度きちんと問い詰めた方がいいかもしれません。うう……心配したら、急に胃が……。



荒々しい荷運び人： アアン？ なんだデメー！ 俺は工作中だ、気軽に声かけんじゃねえ！ アアッ！？ 鍛冶師ギルドから頼まれた荷物だって！？ 知るか、おととい来やがれチクショー！ ……ウン？ 待てよ？ 怪我をした同僚が、鍛冶師ギルドからの荷物を、代わりに運んでくれて言ってたような……？ ……あッ……………ヤバッ。

わ、悪いのは俺じゃねえッ！ 届けなかったら取りに来るだろうって、思ってたッ！？ 荷物ならそのへんに積んであんだろ、好きに持ってけ！ 鍛冶師ギルドからの荷物なら、そのへんに積んであんだろ！ 好きに持ってきやいいだろうが、チクショー！

フ・ラミン： あら、おかえりなさい。タタルさんから話は聞いているわよ。それで、彼女の荷物は、無事に見つかったかしら？ ……はい、確かに預かりました。タタルさんが今日の採掘から戻ってきたら、必ず渡しておくわね。こんなに熱心に道具までそろえちゃって……。フフ、石の家の守護者は、タタルさんなのかもね？ でも、ちょっと心配でもあるの。採掘をするだけとはいえ、レヴナンツツールの近郊は、危険が多いから……。よかったら、様子を見てきてもらえないかしら？ タングル湿林の手前で「タタル」と呼べば、彼女、きっと気付くはずよ。



タタル : フンフ フンフ フーン。あかつきのー おーさいふ まーもるーためー。みーんなーの たーめにー たーちあーがるのー。
 こーせき あーつめーて ざっくざくー！ ぜーんぶ うっぱらって ざっくざくー！
 あまった おかねーは おーこずかいー！
 いーらない くずいし ぼーいばい！ ひーまな けんじゃも ぼーいばい！ フンフ フンフ フーン。
 ふう……。今日は、こんなところですかね？
 ◇◇◇さんが副道具を運んできてくれれば、明日からはもっと、ざっくざくでです。
 フフフ……。夢の、おやつが支給される職場も遠くないです！ まずは、ブラッドカーラントタルトでっすかねえ……？
 ……むむむ？ 今、誰かに呼ばれたような……？
 ギニャアアア！



タタル : あわわわわ……。し、死んじゃうかと思ったのです……。！
 助けてくれて、ありがとうございます……。！ とにかく、一刻もはやく、今すぐに、石の家に帰るです……。！

タタル : おかえりなさいませ！ たった今、フ・ラミンさんから荷物を受け取りました。
 ほかの採掘師の装備といっしょに、大事にします。
 それにしても……。さっきは、どうなることかと思いました……。モードウナ……。怖いところ……。
 私だけで街をでるのは、やめた方がよさそうです……。次の採掘は、誰かに付き添ってもらうことにします。
 はあ……。金策の道は険しいです……。でも、まだまだ負けないのです。
 この石の家を「黄金の家」にするつもりで、がんばるです！